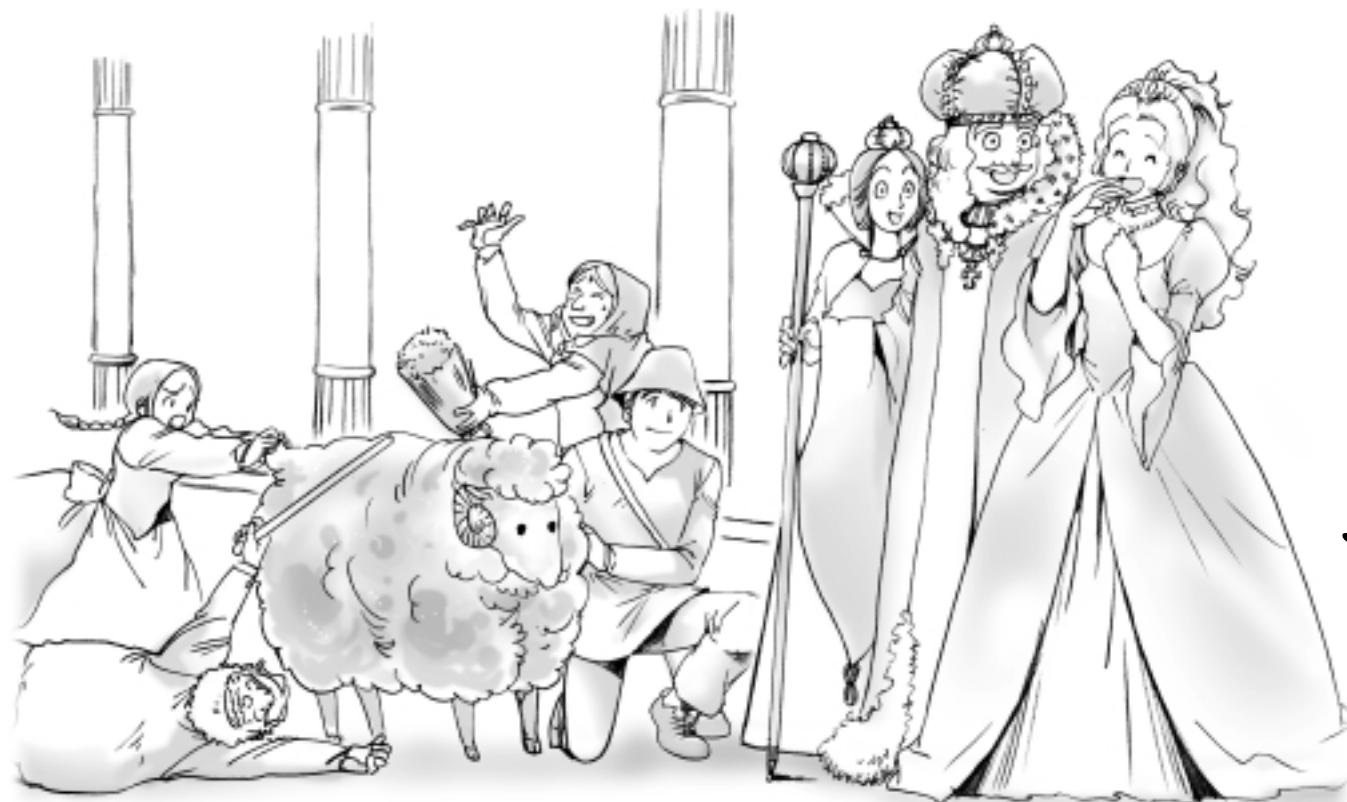


エレクトロニクスで社会に貢献する



46

なんでもくついてしまう赤い羊

(フィンランドの昔ばなし)

ひとりの羊飼いが、主人にやとわれて小屋でくらしていました。

ある日旅人が泊まりにくると、羊飼いは給料を引かれることを承知で、旅人のために子羊を料理しました。ところが翌朝、羊は逆にふえていました。旅人は「赤い子羊以外は主人にやりなさい。」といって去りました。

羊飼いはたくさんごほうびをもらって主人の家を出ました。

夜になって、羊飼いと赤い子羊が宿につくと、宿の娘が、子羊の毛で手袋をつくろうとしました。

しかし娘が子羊にふれたとたん、手が子羊にくついてしまいました。

娘を助けようとして、父親もくつき、母親もくつきました。

ところで、ある国に王女がいて、いつも悲しそうな顔をして決して笑おうとしませんでした。

国王は「王女を笑わせたら王国の半分と王女を妻として与える」とおふれをだしていました。

そこで羊飼いは、王女のものと、娘も父親も母親もくついたままの子羊を連れていきました。

それを見て王女は思わず笑いだし、羊飼いは王国の半分をもらって、王女と2人で末永く幸せにくらしました。

笑わない王女さまが、初めて笑了。

ローム君の新・博物日記

第46話

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

バックナンバーは
ロームの文化支援のサイトで
ご覧いただけます。

ローム昔ばなし



手段として、人間に備わったものだそうです。つまりヒトが笑うのは、それだけ悩みの多い賢い動物だという証なのです。「笑い=くだらない」と思っていたら大間違い。大いに悩み、そして大いに笑うことこそ、賢い人間らしい生き方なのですね。

●“笑う門には福来る”はホント！

もちろん、ヒトはいつでも笑えるわけではありません。最近は、笑顔を見つけて自動的にシャッターをきるカメラが登場しましたが、カメラに向かってうまく笑えない…という方もいるはず。しかし、そんな時はムリに笑ってみるのも一手です。驚いたことに、「つくり笑い」でもヒトは幸せになれるらしいのです。一体どういうことでしょう。そもそも笑顔は、脳からの刺激が顔に伝わってつくられます。そこでわざと笑顔をつくる実験をしたところ、顔の動きに脳がつられて、幸せを感じるドーパミンというホルモンを出すことがわかったのです。これは「顔面フィードバック効果」と呼ばれています。まさに“笑う門には福来る”というわけですね。さらに、たくさん笑顔をつくるほど「表情筋」という顔の筋肉も鍛えられます。この「表情筋」には顔の脂肪をつり上げるサスペンダーの役目があり、鍛えるほど肌の張りツヤもアップして、見る相手に好印象を与えます。心にも肌にも、自分だけでなく周りの人にも喜びをもたらす笑顔。そんな笑顔を取り戻した王女を見て、きっとだれもが幸せな気分となつたでしょうね。

昔ばなし監修／昔ばなし研究所所長 小澤俊夫

ローム株式会社

www.rohm.co.jp

本社/〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21 TEL(075)311-2121 FAX(075)315-0172

★『ローム君の新・博物日記』“世界昔ばなしを科学する”シリーズのバックナンバーは、ロームのホームページに掲載しております。

ローム昔ばなし



科学するこころを大切にします。半導体のロームです。

第45話へ